



ロシアNIS経済速報

社団法人 ロシアNIS貿易会

2011年（平成23年）1月25日号 No. 1518

目次

■ ロシア経済特区の新展開	服部 倫卓 1
—サマラ州とスヴェルドロフスク州に工業生産特区—	
■ トピックス	15
ヤヌコヴィチ・ウクライナ大統領訪日に関連した動き／15	
NECのロシア事業が統合／15	
JXエネルギーと三菱商事、ロシア初の排出枠取得／15	
三井物産がロシア決済大手に出資／16	
経産省とガスプロム、LNG事業化調査で合意／16	
沿海地方知事がマツダ代表団と会談／16	
ロシア大統領、日ロ原子力協定の批准法案署名／16	
■ エトセトラ	16
第10回日本ウズベキスタン経済合同会議のご案内／16	
『調査月報』2011年2月号のご案内／17	

シリーズ・ロシアの産業クラスター④

ロシア経済特区の新展開 —サマラ州とスヴェルドロフスク州に工業生産特区—

ロシアNIS経済研究所

服部 倫卓

はじめに

当会では今年度、ロシアの産業クラスターに関する調査事業を実施しているが、同国においてクラスターという観点からも重要性が高いのが経済特区である。

ロシアの現行の経済特区制度は2005年の特区法によって形作られているが、必ずしも思うような成果を挙げられていなかったことから、2009年末にかなり大きな修正が加えられた。これによる規制緩和を受け、2010年には新たな特区が4つ設置された。このうち、サマラ州のトリヤッチ特区、スヴェルドロフスク州の「チタンバレー」という2つの工業生産特区は、産業クラスターという観点からもとくに注目度が高い。また、ムルマンスク港湾特区も、運輸・港湾クラスター形成の試みとして見逃せない。

以上にかんがみ、本稿では、2009年の特区法の改定につき改めて整理し、2010年の特区の成果を総括するとともに、トリヤッチ特区、チタンバレー、ムルマンスク港湾特区の概